



《題字・森神紫陽》



ご本山布教師・辻良哲和尚様による、「禅・自ら調え・生活を調えましょう」の法話



晴天の3月31日午後2時より60名の参拝者を迎え、皆様からの献米をお供えして春彼岸先祖供養を行い、布教師様のご法話を拝聴致しました。ていねいで判りやすいお話が終わると長田秀夫総代から『ご法話を日々の生活に生かして精進致します。』とお礼の言葉で、春の彼岸会を終えました。

### 春の彼岸法要と本山定期巡教

## 第34号

平成14年春発行  
(初刊 昭和63年6月30日)

正定寺花園会広報  
発行所

〒879-3104

大分県南海部郡直川村  
仁田原 寶林山正定寺内

TEL 0972(58)2190

FAX 0972(58)2192

URL <http://www3.ocn.ne.jp/~syojoji>  
e-mail [shojoji@bronze.ocn.ne.jp](mailto:shojoji@bronze.ocn.ne.jp)

住職 寿山士朗  
閑栖 豊嶽義弘

## 正定寺鎮守の寶林稻荷初午会



3月15日の旧初午は、正定寺の鎮守さまである通称「寶林稻荷」で初午の法要が行われました。鳥居も新たに塗り替えられ、村内や佐伯市・尾浦からも稲荷信者の参拝がありました。正定寺のお稲荷さんは、享保二年(1717)に正定寺第八世住職の寛道崇廣和尚さんにより建立されました。今から280年前の事です。禅宗では寺院の鎮守さまとしてお祀りされてい

ます。このお稲荷さまの正式なお名前を「寶林茶吉尼白晨狐王菩薩」と云います。その菩薩様は、「巾着」に姿を変えてお祀りされています。嘉永三年(1850)の「正定寺年中行事」に「二月初午之日小豆飯添菜献膳之事」と記されています。現在お祀りされている場所は、お稲荷様のお堂が建っていたので、今でも「堂屋敷」と云う地名です。

〈家族みんなで読みましょう〉



大般若経におこる智恵の風にあたる参拝者

## 拝者を超す過去最高のにぎわい!!



百五才の泥谷勤さんへ本山から感謝状



「こっちになげて〜!」



餅投げに殺到する大人に圧倒されて泣き出す子供……「ごめんね!!」

〈家族みんなで読みましょう〉



子供にやさしく「いつまでもいい子でネ！」



信心の姿

## 正月20日の大般若会は、300名の参



3年目の導師



4年ぶりのくじ引きも盛会でした

### 大般若回想

昭和58年は小野農一檀徒会長が正定寺の運営にたずさわっておりました。当時の大般若会は20名ほどの参拝者で、元禄年間に奉納された経典を閑栖和尚と二人で精一杯の大声で法要を行っていました。

古くなった経典はめくるたびにちぎれて、度々手が止まり苦労しました。

その様子を見ていた大鶴地区の久保田与さんが、小野会長さんに「若い新和尚が一所懸命、檀信徒のために法要しているけれど、あの古い経典では新和尚に申し訳ない、何とかならんか」と相談を持ちかけました。

小野会長はさっそく趣意書を作成して、大般若経六百巻の新調費用三百万円の寄進に取りかかりました。

多くの檀信徒は「大般若経」と言う言葉さえ聞くのが初めてで、幾度も会議を重ねました。

会長の尽力で順調に寄進も集まりはじめた頃、小野会長は突然逝去なされ、新調の経典さえ見ることもできませんでした。

小野会長の意志を継ぐべく残任期間を竹下正副会長が会長に就任して昭和60年に高麗本の大般若経六百巻が新調されました。

昭和61年には新会長に就任した久保田弘さんが「新しい経典での法要には大勢の和尚様を迎えては」との提案して、百名の参拝者のお参りをいただき盛大に法要を営むことができました。

その後、会長に高須賀芳包さん・平井正さんが歴任、平井会長時代にくじ引きが行われ、参拝者も二百名を超えるようになりました。当時、大般若会の様子を寺報に掲載していた武田守広報部長さんと「檀家三百・参拝者三百が夢の目標」と語っていましたが、本年、夢の目標三百名の参拝者を迎える事ができました。仏心を起こし各会長にその心が継がれて20年、今や「大般若」の言葉を知らない檀信徒はいなくなりました。各家庭には大般若のお札が祀られ、平成5年からは総代・地区世話人・婦人部共に80名の皆様が参拝者をお待ちする大法要になりました。今回あらためて大般若会の礎になり、ご尽力たまわりました故久保田与様・故小野農一様のご冥福を祈り、支えてくださった多くの皆様に心より感謝申し上げます。現在、大般若経六百巻の内三百七十三巻まで寄進檀信徒のご芳名が記されています。

〈家族みんなで見ましょう〉

# 亡き父に救われる 簀戸長生

埼玉県富士見市  
(仁田原岸の上出身)

今から九年前のこと、急に腹の不調を覚え医師に観てもらったら、運動不足によるものと診断された。

しかし、自覚症状が一寸違うので他の医者に診察してもらった結果ガンと診断された。早速手術をうけ、自愛に精励して今は元気に暮らしている。

手術を受けたその晩の夢の中のこと。おやじの後に歩いてお墓の方に歩いて行った。お墓についてのこと。突如としておやじがふり向いた。その顔は仁王様か鬼の様相だった。

仁王様のように両手を大きく広げ立ちはだかったおやじが、大きな声で一言「来るな」と言い残して消え去った。



きつと生死をさまよっている自分にお前は未だ来るのは早いと言って追い帰してくれたのである。一命を取り止め、こうして元気に暮らすことが出来るのも、今思うにあの時のおやじの一言のお陰と思いい、先祖がこうして守ってくれているのだと信じて、いつも仏様に手を合わせている。

今は、直川から遠くはなれ、埼玉に住んでいて思うに負かせられないが、ありがたいことに正定寺の住職さんが、岸の上のお墓にわざわざ出向いていただき、お経を上げて下さる。こんなにありがたいことはない。ほんとに感謝の念に耐えない。

昔は先祖供養の時は必ず豆腐を作って厚揚げにし、うどんを打って煮物などでもてなしたものだ。朝早くに起きて石臼で豆をひくのによく手伝ったのを鮮明に覚えている。

当時は千巖和尚さんがお

経を上げてくれたのが強く印象に残っている。今思うと只々なつかしく二度と叶わぬ夢を連想しながら、つくづく先祖の大切さ、尊さを痛感しているこの頃である。でもなかなか直ぐにお墓参りが出来ない現実。年に一度実現出来れば幸せだと思ふ。

遠く離れて想う。寿山住職のお経が自分にとつてすばらしく癒しになることを。



H13. 6/28 66才の誕生日

## 《正定寺花園会役員名簿》

花園会会長(檀徒総代)	長田秀夫
花園会副会長(檀徒総代)	甲斐照光
花園会役員(檀徒総代)	林一孝
花園会役員(檀徒総代)	柳井孝義
花園会会計・庶務	小田木聖孝
花園会婦人部部長	林寿子
花園会婦人部副部長	矢野侃可
花園会婦人部副部長	平井カズエ
花園会婦人部副部長	久保田清江

## 《正定寺花園会地区世話人名簿》

内水地区	小野 秀喜	栳杭地区	柳井 正道
岸の上地区	御手洗喜義	上の地区	小野 道夫
細川内地区	小野二三雄	柚の原地区	小野 哲夫
黒岩地区	小野 山	大鶴地区	久保田 誠
羽木蟻地区	泥谷 新一	横川地区	大原 昇
神の原地区	甲斐 朝美	神栗地区	村西 栄二
市屋敷地区	柳井 清浩	堂師地区	川野真治郎
野の内地区	岩佐 昭一	立長地区	立箱 功
中道地区	安藤 久男	吹原地区	矢野 照雄
久留須地区	小野 哲生	向船場・川又地区	竹尾 育人
竹園地区	古元 聖人	開庭・中書地区	甲斐 健平
江河内地区	河野 林	佐伯地区	仲宮 哲男
尾浦地区	鳴海植三郎		
花園会会計監査委員	大原 登		
花園会会計監査委員	矢野 照雄		
婦人部会計監査委員	久保田 操		
婦人部会計監査委員	河野 豊美		



選手宣誓



参加チームは10チーム

3月31日第5回正定寺杯ゲートボール大会が晴天の中、直川苑グラウンドで行われました。参加者約60名は日頃の練習成果を存分に発揮して参加10チームが桜舞う会場で対戦致しました。8時30分に前年度優勝チームの佐伯東町チームが優勝旗返還・工藤花子選手が選手宣誓をして3時間の熱戦が続きました。「大会を通して一期一会のご縁にふれ健康と明るい社会をつくる」ことを旨とする正定寺ゲートボール大会は、毎年「春彼岸本山巡教」にあわせて行われています。



しんちょうに！しんちょうに！



そこそこ!!



入苑者の後藤さんも応援



準優勝 横川Bチーム

第5回 正定寺杯ゲートボール大会



優勝 直川苑チーム



正定寺賞 赤木Aチーム



三位 仁田原Bチーム

第五回正定寺杯ゲートボール大会結果

《優勝》 直川苑チーム

河津廣行・今山智行・山中清・小野静子・山下智也

《準優勝》 横川Bチーム

秋元強・染矢保・柳井豊・五十川キミエ・前田豊子

《三位》 仁田原Bチーム

長田秀夫・小野昭和・工藤利子・小野和子・御手洗好子

《ブビー賞》 赤木Bチーム

安藤金喜・廣瀬夏・後藤信子・平井正・後藤久江

《正定寺賞》 赤木Aチーム

安藤兼夫・武田守・伊東キヌエ・山崎千代子・寺岡道子

《長寿賞》

男子：安藤兼夫さん（87才）  
女子：廣瀬 夏さん（83才）

《敢闘賞》

東町チーム 入江 淳さん  
直川苑チーム 小野静子さん

仁田原Aチーム 飛田礼子さん

仁田原Bチーム 小野昭和さん

赤木Aチーム 武田 守さん

赤木Bチーム 安藤金喜さん

横川Aチーム 柳井熊男さん

横川Bチーム 柳井 豊さん

中央チーム 風戸武義さん  
尾浦チーム 山田栄美子さん

〈家族みんなで読みましょう〉





昨年の「東京直川会」で上京された方々とのスナップ

## 「私と東京直川会」

戸高喜代兎

東京都町田市成瀬台

(仁田原内水出身)

昭和三十六年三月、豊南高校を卒業し、急行“高千穂”に揺られて東京へ来て以来四十年、良く勤めた会社も今秋無事定年となり、第二の人生がスタートいたします。この間、両親兄弟をはじめ、家族は勿論のこと、多くの皆様方のお力添えをいただきます。深く感謝しております。

思えば、“高千穂”は、“富士”に、そして、“新幹線”に、飛行機も新しい空港に移り、YS-11から大型ジェット機へと、この四十年間は豊かさを求めてまさに日本の高度成長の一時期だったと思います。

この間、会社生活、家庭生活では皆様方同様いろいろの苦しいこと、楽しいことがあります。しかし、私には山河に満ちた自然、そして先祖を祀る、“ふる里”が常に心の支えとなり、今日を迎える事が出来ました。豊南高校の同窓会、大分県人会、



そして「東京直川会」の幹事として、忙しい中お手伝い出来たことが自分の今日までの人間形成に役立った事でしようし、またこの会によって、ふる里に係る多くの先輩、友人を持つことが出来た事と深く感謝しています。

中でも「東京直川会」は、文字通り心のふる里です。年に一回のこの会はまさに「直川」そのものだと感じます。私もいくつかの会に出ています。「東京直川会」はどの会よりも自身が充実していますし、何よりも自然体です。ここに至るまでの歴代の会長さんをはじめ、村長さんならびに村関係者の皆様のご努力に感謝する次第です。私自身、村から一人でも多くの方がご参加いただけるよう、微力ながらお手伝いさせていただいておりますが、昨年の会には、正定寺の住職さんにもご出席いただきまして、会員一同親しくお話しすることが出来ました。

今後何年か後には、市町村合併のため大きな変化があるかもしれないませんが、「直川」の名の下、会は長く続くものと信じてやみません。そして直川から一

人でも多くの方が会にご出席されるよう、また、こちらから直川へ帰りました時には、より多くの人達と交流出来ますようにと願っています。誰にも束縛されることなく、いつまでも自然体の「東京直川会」であってほしいものです。

定年までのこの四十年余り、そのほとんどがお客様と向き合う仕事で、多くの事を学ぶ事が出来ました。また、北は札幌から南は沖縄まで各地を見る機会にも恵まれました。しかし、何よりも健康でゴール出来ることを幸せに思っています。考えてみれば平凡な人生だったと思いますが、これからは趣味以上と言われている“畑仕事”に精を出していくつもりです。幸い、近くの地主さんが土地を貸してくれましたので、これからは“農家”になり、新鮮で農薬の少ない野菜を直川の人達と同じように食べていきます。そしてゆつくりと帰省し、今まで出来なかつた先祖の供養を心掛けるとともに、直川の人達とお会いし、語らい、酒を酌み交わすことを楽しみに生きていきたいと思っています。

東京・町田にて

〈家族みんなで見ましょう〉

正定寺の行事

5月13日～14日・・・相国寺落慶法要 於：京都・相国寺  
 5月下旬・・・定例総代会・役員会 於：正定寺書院  
 6月初旬・・・定例世話人総会 於：正定寺書院  
 6月初旬・・・献茶会 於：正定寺本堂  
 7月下旬・・・寺報第35号  
 8月1日～15日・・・お盆棚経参り

おくやみ

平成13年

12月13日・・・故人 戸高富士美 喪主 長男 増博 (葬儀 於：佐伯市・公民館)  
 12月16日・・・故人 谷崎 松雄 喪主 孫 博文 (葬儀 於：仁田原・自宅)  
 12月30日・・・故人 甲斐 ショ 喪主 長男 健平 (葬儀 於：直見・自宅)

平成14年

1月13日・・・故人 河野 チソ 喪主 息子 林 (葬儀 於：直見・自宅)  
 1月16日・・・故人 森本 杉枝 喪主 長男 富夫 (葬儀 於：佐伯市・龍護寺)  
 2月6日・・・故人 廣瀬千代子 喪主 父 松行 (葬儀 於：赤木・自宅)  
 3月6日・・・故人 安藤 博 喪主 兄 智公 (葬儀 於：赤木・自宅)  
 3月13日・・・故人 森下ミサ子 喪主 長男 修 (葬儀 於：赤木・自宅)  
 4月5日・・・故人 園田 正 喪主 妻 ツヤ子 (葬儀 於：別府市・葬儀場)  
 4月11日・・・故人 羽明 登 喪主 長男 忠夫 (葬儀 於：仁田原・自宅)

檀信徒へのお知らせ

6月には、定例世話人総会があります。檀信徒の皆様で、ご要望・ご意見等がございましたら、地区世話人様に申し出下さい。全てのご要望・ご意見・お尋ねに添えないかも知れませんが、住職・総代共に精進致します。又、檀信徒の住所変更は、地区世話人様にも連絡して下さい。

知って得する仏教学

《春分・秋分の日が彼岸になるわけ》

「彼岸」というのは、インドの言葉でパラミータ（波羅蜜多）と言い安らかな悟りに至る仏心を言います。

中国の思想では、彼岸とは極楽浄土のことです。

極楽浄土は西方にあるとの考え方から、太陽が真西に沈む春分・秋分の日の夕陽を無心に拝むと浄土に行けるという考えが生まれ、日本で春分・秋分の日を「お彼岸」と決めました。

また、二河白道という教えもあります。貪欲な心を表す「水の河」と燃えさかる怒りを表す「火の河」の二つの河の間に細い白い道があります。仏様のような心を持ちたいと願う者は、こちらの岸（此岸）からあちらの岸（彼岸）にお悟りを求めて白道を渡ろうします。後ろからは、不安や悩み

を表す群賊悪獸が迫ります。むこう岸の浄土には、阿弥陀さまがおられて、「ただひたすら信心しなさい、信心すればあなたを弥陀が守りましょう」と呼びかけ、河のこちらにはお釈迦さまが立って「恐れることはない。まっすぐに行くがよい」と勧めます。この白道を、春分秋分の日、太陽の真東から真西に進む道と重ね合わせて、春分・秋分の日を「お彼岸」と決めたとされています。



# 南河内の古寺をたずねて

久保田榮一(60才)

東京都港区  
仁田原大鶴出身

## ご本山妙心寺より 米寿のお祝ひ

ご本山管長さまから、米寿のお祝ひが檀信徒に贈られました。

寿になられる方々です。  
〔大正2年(満年齢88才)〕大正4年(数え年齢88才)〕  
今回の該当者は檀信徒名簿を参照して申請致しました。  
各地区で該当者が他におられましたら世話人様を通じてご連絡をお願い致します。  
今回米寿対象者になつていない方は来年度申請致しますので必ずご連絡下さい。

暮れも押しつまった十二月月中旬、大阪富田林で「兄弟姉妹 びかり」があり、その足で河内の国を訪れる機会を得た。

最初は名峰葛城の麓にある弘川寺である。

庭園には、樹齢三百五十年の天然記念物「かいどう」が植わり、四月の花盛りの頃はさぞかし壮観であろう。当寺で名高いのは鎌倉時代初期の頃の放浪歌人「西行法師」である。

西行堂には  
年たけて 又越ゆべしと  
思つきや 命なりけり 小  
夜の中山  
の歌碑があり、更に西行の  
生きざまにあこがれる我が  
身には

願わくは 花の下にて  
春死なむ そのきさらぎの  
望月のころ (西行)

と詠じて、その通り春先に命を終えたというのだから西行もさぞかし本望であったろう。

府下第一の高峰金剛山中腹の「千早城跡」を見学し、楠 正成の菩提寺「観音寺」と楠公夫人ゆかりの「楠妣庵」へと廻る。

鎌倉幕府の滅びたあと、楠正成は都から攻め寄せた足利尊氏の大軍を、ワラ人形等の奇計でもって千早城を守り抜いた南朝の功臣とすることだが、我々には故郷でお袋が唄っていた「我が子正行呼び寄せて 父は兵庫に赴かん……」の桜井の

別離の方がピンと来る。  
楠正成は、我が子正行と別れて湊川の戦いで壮烈な死を遂げ、正行も四条畷で戦死し、楠公夫人は、名も敗鏡尼と改め亡き正成公をはじめ一族郎党の菩提を弔いつつ隠棲し余世を寂寥のうちで過ごされ、この庵を楠妣庵と名づけられた。  
楠妣庵観音寺は、我が正定寺と同じ臨濟宗妙心寺派の禅寺であり、同じ信徒として親しみの持てる名利である。

さらに山門は、山梨県塩山市恵林寺塔頭青松軒に建立されていた門を楠公夫人百年祭に移築したもので栗材による四脚門である。  
あわただしく師走に南河内を駆け巡ったが思いは遙か八百年の昔を偲び、テロや戦いのないくに創りであれかしと祈らずにはおれなかった。合掌

## 住職の一言

今回の檀信徒投稿は昨年参加しました、「東京直川会」で檀信徒や分家の皆様に寄稿の依頼をお願い致しました。正定寺の寺報「寶林精舎」は、村内280部・村外250部の配信を行っております。檀信徒に限らず分家や遠地に住むご長男家族の皆様にも読んで頂いております。すでに、初刊より16年目を迎えました。IT時代に先駆け8年前よりホームページ開設も行い、正定寺の歴史や行事も積極的にインターネット上で掲載いたします。「寶林精舎」は寺院・檀信徒相互の架け橋ですご家族揃ってお読み下さい。今回のゲートボール大会・春彼岸会・初午会等の写真は元広報部長の武田守さん提供です。



千早城跡登り口にて